

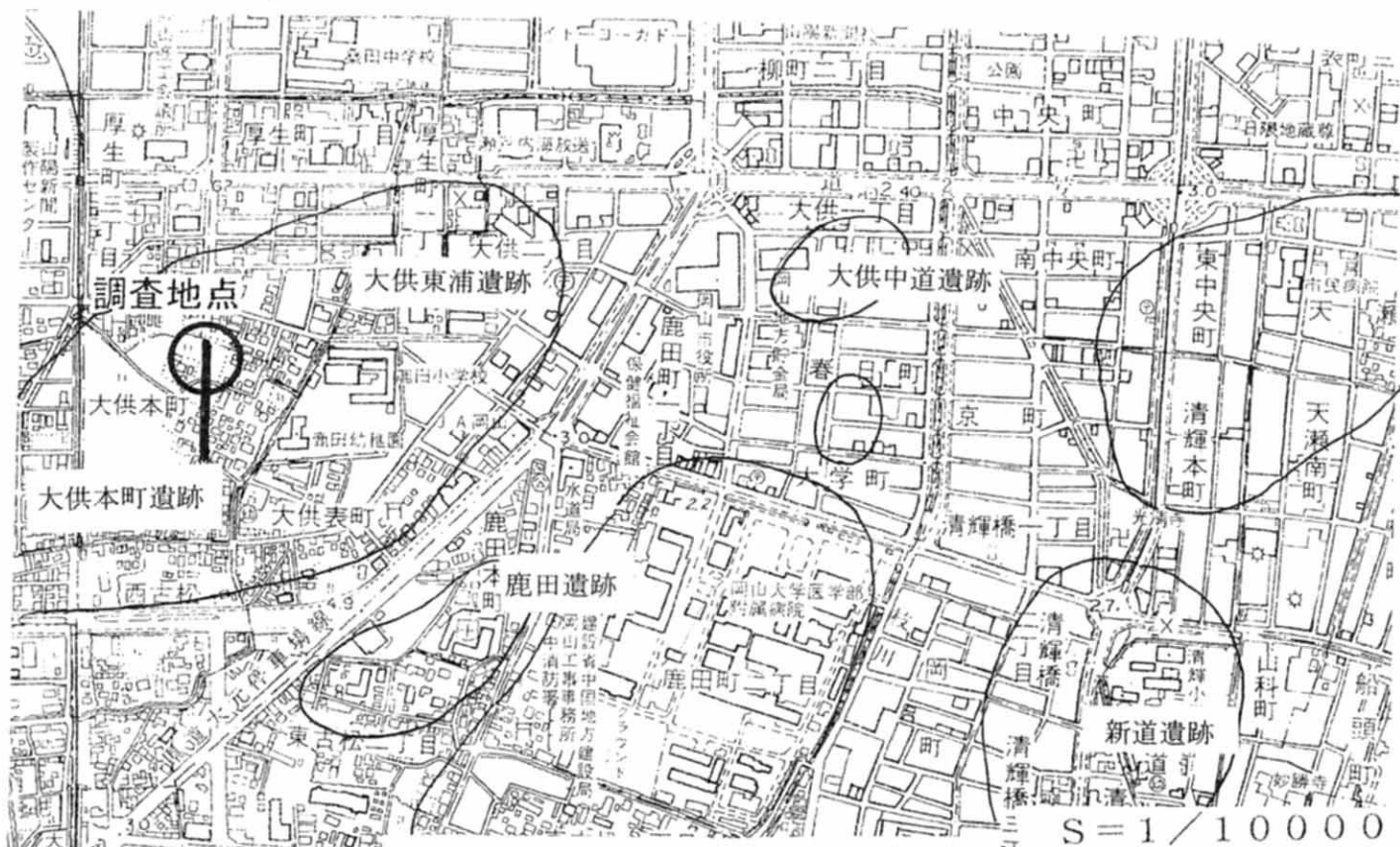
はじめに

岡山市教育委員会では市道の建設に伴って、平成17年5月から大供本町遺跡の発掘調査を行ってきましたが、このたび発掘調査がほぼ終了したため、これまでの成果を公開することとなりました。

調査の成果

大供本町遺跡ではこれまで発掘調査などは行われたことはありませんでしたが、このあたりは平安時代から室町時代まで続く荘園「鹿田荘」の西端にあるとみられ、岡山大学医学部構内などでもその当時の遺跡（鹿田遺跡）が見つかっています。

今回の調査では弥生時代（約1,800年前）の土器も少量ながら出土したことから、その頃から大供本町周辺でも人が住み始めたことがわかりました。その後しばらくは明確な遺構は確認できないものの、平安時代（約1,000年前）から現代までは連綿と集落がいとまなまれていることが確認され、各時代の溝や柱穴、井戸などが多数検出されました。なかでも平安時代から鎌倉時代（約800年前）の溝からは緑釉陶器や中国製磁器などが出土しており、この付近は一般的な集落ではなく荘園内の役所か居館のような施設が存在していたと考えられます。また周辺にみられる条里の痕跡は通常の岡山市内でみられる条里から方位がやや東にズレており、その部分が鹿田荘の荘域とみられています。なお、この条里は従来12世紀以降のものと考えられていましたが、今回の調査の結果から一部ではあるものの10世紀頃までさかのぼる可能性も出てきました。



大供本町遺跡と周辺の遺跡



P 178

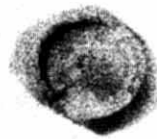


P 275 出土銭貨

元祐通宝・治平元宝など



P 206 硯 (ナヅリ)

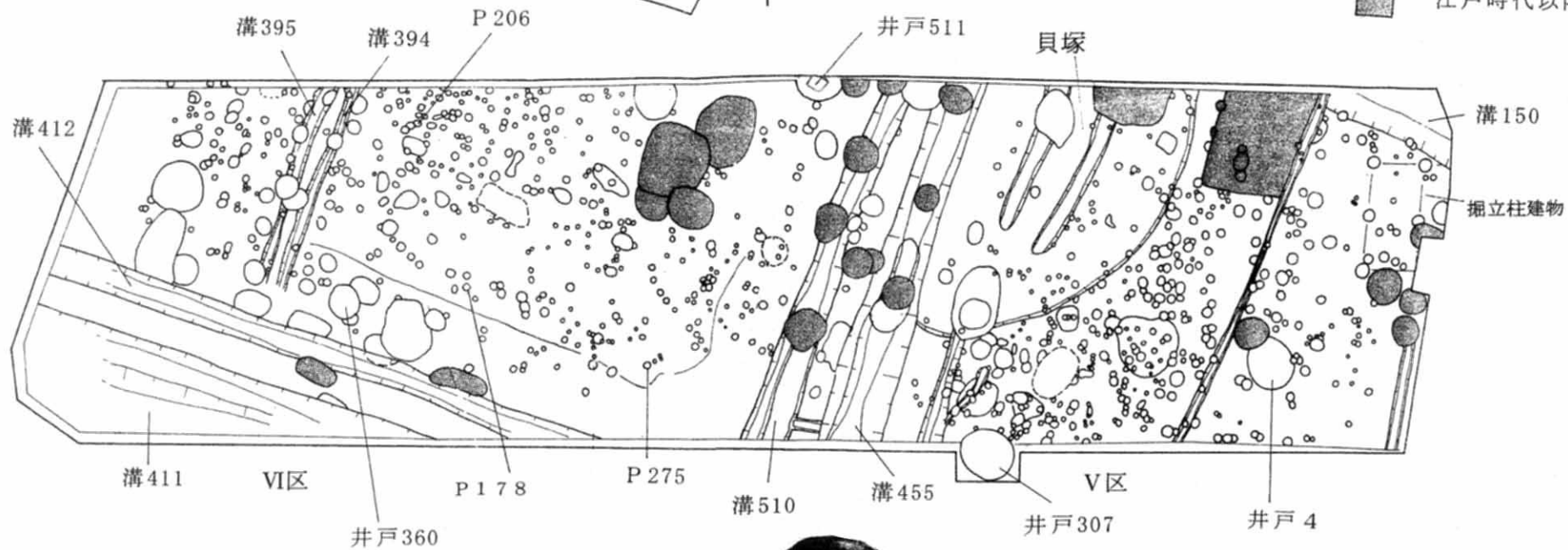


溝510

緑釉陶器



江戸時代以降



井戸360

出土土器

土師質土器・瓦器など



井戸4

出土土器

土師質土器・瓦器など



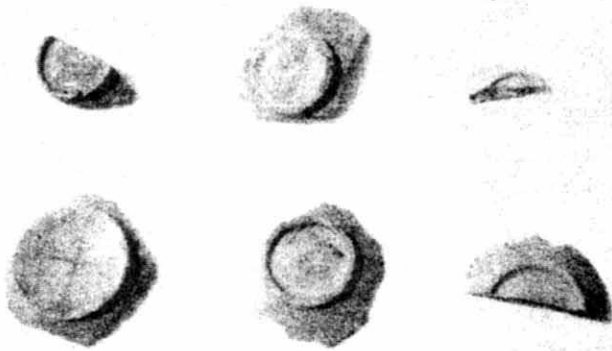
V区・VI区平面図

土師質土器：主として在地産の碗や皿など
瓦器：大阪や奈良などで焼かれた黒色の器

溝150出土土器



墨書土器「壘原」



緑釉陶器

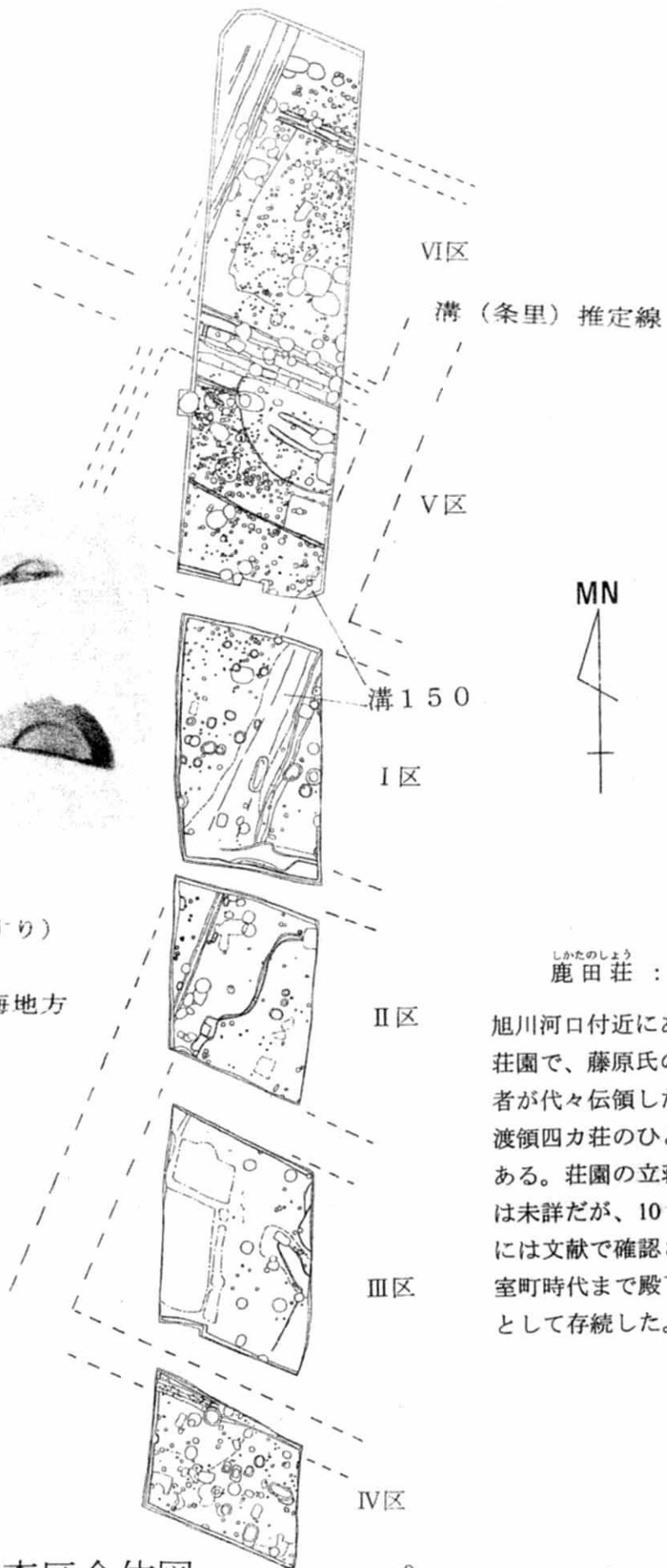
りょくゆうとうき

緑釉陶器：緑色の釉薬（うわぐすり）のかかった陶器
平安時代に京都や東海地方などで焼かれた



輸入磁器

(中国製青磁・白磁など)



しかたのしょう
鹿田荘：

旭川河口付近にあった荘園で、藤原氏の氏長者が代々伝領した殿下渡領四カ荘のひとつである。荘園の立荘年代は未詳だが、10世紀には文献で確認され、室町時代まで殿下渡領として存続した。

調査区全体図

